

論文査読期間の学問領域間比較

島崎 敢¹⁾ 中村 愛²⁾ 小島一晃³⁾ 小柳知代¹⁾
増田和高¹⁾ 松田俊介⁴⁾ 松田真由美¹⁾ 尾関美喜¹⁾

- 1)早稲田大学人間科学学術院 2)早稲田大学人間科学研究科
3)帝京大学ラーニングテクノロジー開発室
4)早稲田大学総合研究機構国際医食文化研究所

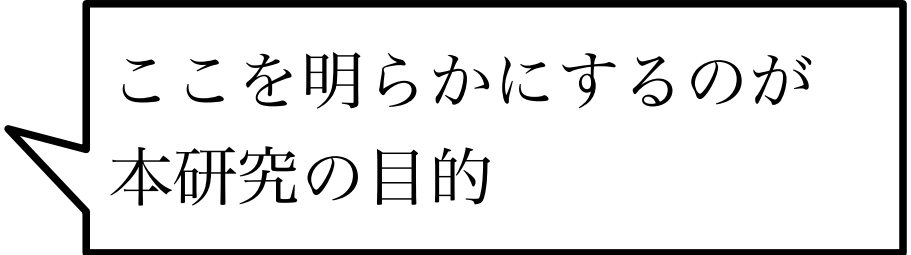
背景

- 研究の価値
 - 客観性・妥当性・有用性・新規性
- 新規性は掲載決定時に獲得できる
 - 早期掲載決定のために投稿者にできること
 - 早く着想, 早く研究, 早く執筆, 早く投稿, 査読者とのやりとりの回数が減るように完成度を上げる
 - 投稿者にはできないこと
 - 査読者決め (の迅速性)
 - 査読 (の迅速性)

早いに越したことはないし
早さは興味のあるところ

先行研究

- 電子投稿システム導入前後の査読期間を比較したもの
 - 金田ら2000, 西山ら2007
- 同分野の海外の雑誌と査読期間を比較したもの
 - 林ら2005
- 分野横断的な研究は見当たらない
 - 学問領域の持つ文化的背景や投稿規定の内容などによって査読期間は違う？



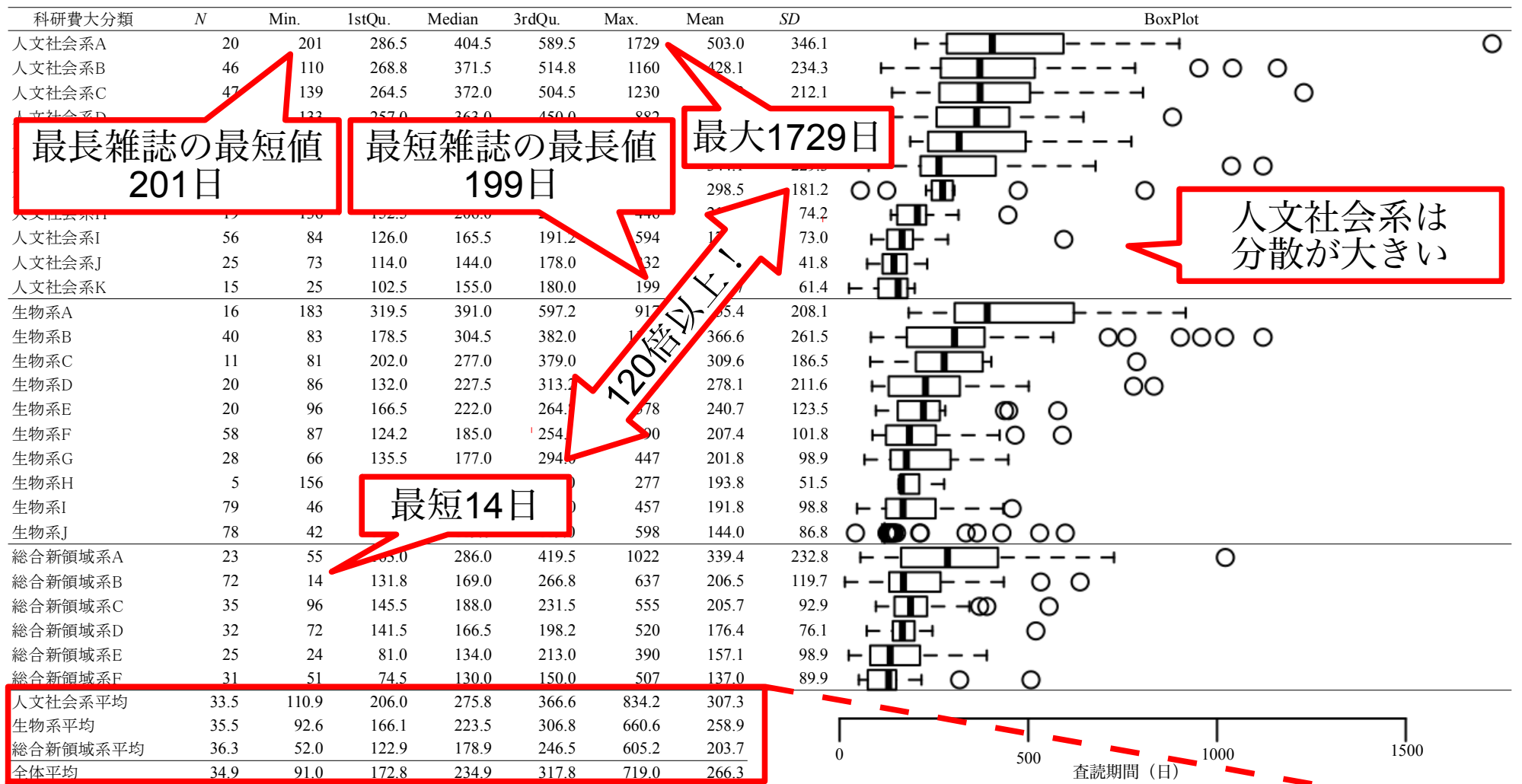
ここを明らかにするのが
本研究の目的

調査対象

- 最新刊から遡って10冊に掲載された日本語の原著論文
 - ※10冊未満の雑誌も少数含まれる
- 対象雑誌
 - 人文社会系 11誌
 - 生物系 10誌
 - 総合新領域系 6誌
 - ※理工系雑誌には、受付日や受理日の記載がほとんどなかったため対象から除外した。
- 合計27雑誌, 941本

調査項目

- 査読期間
 - 受付～受理の期間
- 投稿規定
 - オンライン投稿（メール投稿を含む）の有無
 - 投稿料の有無
 - 査読回数の上限の有無
 - 1回あたりの査読期限（査読者が査読にかけてよい時間）の明記の有無
 - ※投稿規定に記載がない場合，著者及び共著者の経験から明らかな情報については補完し，それ以外は「不明」として処理



最長雑誌の最短値
201日

最短雑誌の最長値
199日

最大1729日

人文社会系は
分散が大きい

120倍以上!

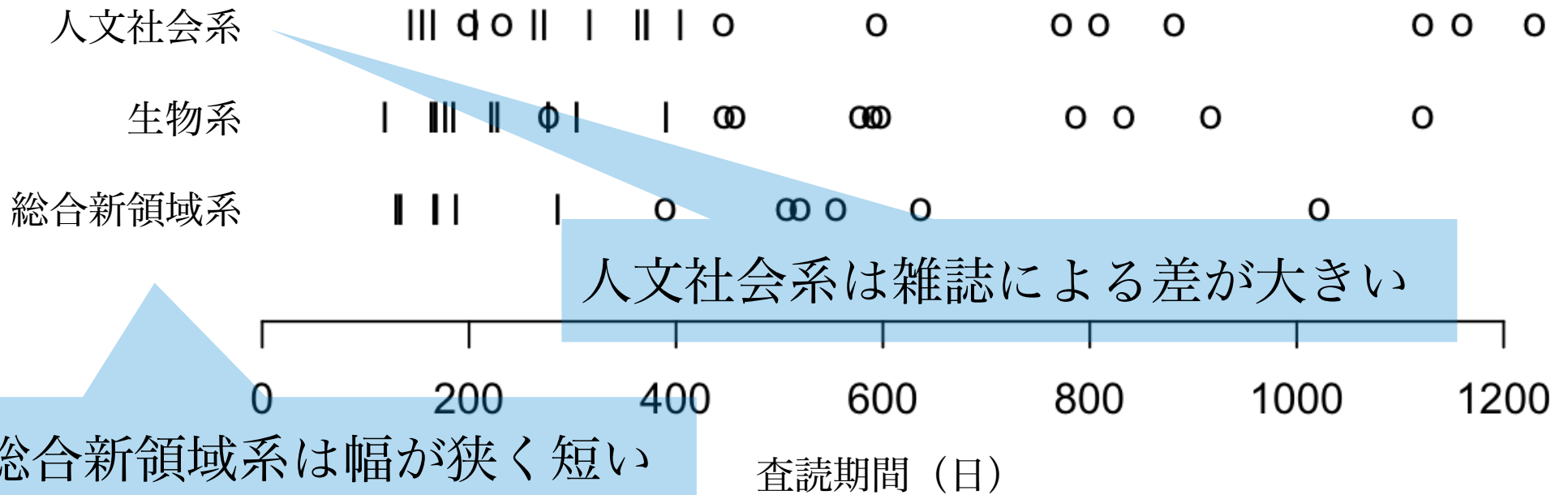
最短14日

	N	Min.	1stQu.	Median	3rdQu.	Max.	Mean
人文社会系平均	33.5	110.9	206.0	275.8	366.6	834.2	307.3
生物系平均	35.5	92.6	166.1	223.5	306.8	660.6	258.9
総合新領域系平均	36.3	52.0	122.9	178.9	246.5	605.2	203.7
全体平均	34.9	91.0	172.8	234.9	317.8	719.0	266.3

分野と査読期間

理工系の論文にはそもそも
受付と受理が書かれていない

I Median o Max.

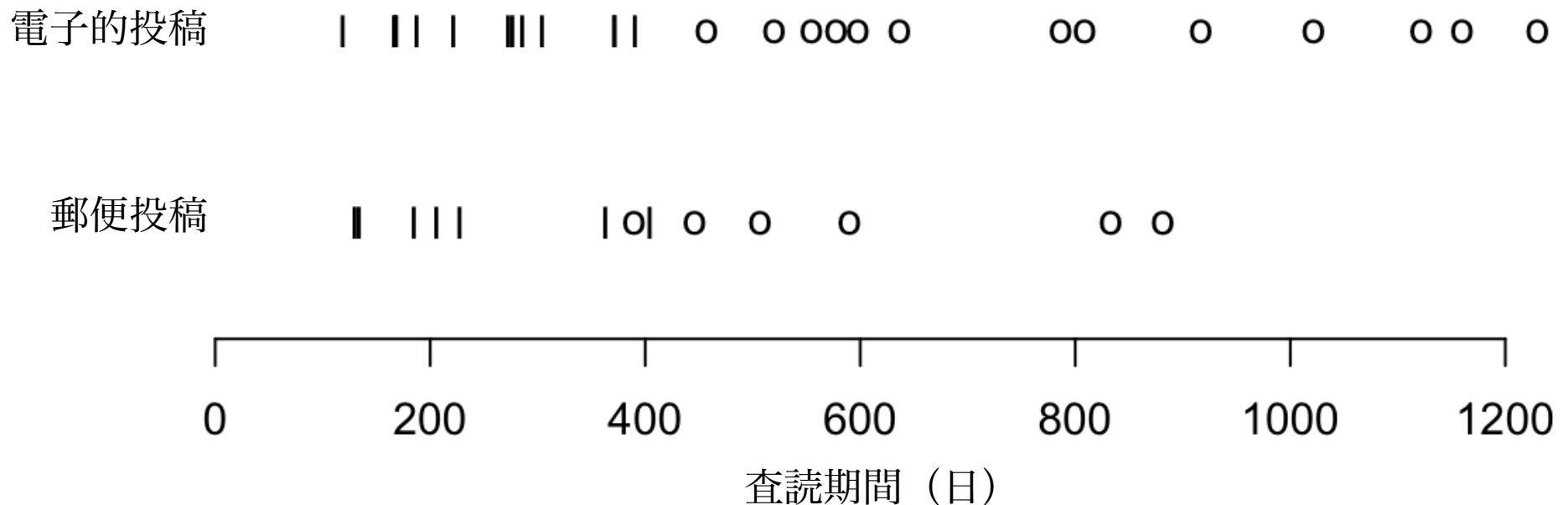


電子投稿*と査読期間

中央値には大差なし

最大値は電子投稿が長い

| Median o Max.



郵送期間は全体からみればわずかに長いから電子投稿にした？

*メール投稿含む

投稿料と査読期間

有料だと中央値・最大値共に
分布の幅が小さくなる

| Median o Max.

投稿料あり

|| |

oo o

o

投稿料なし

|| | | || |

o

oo

oo

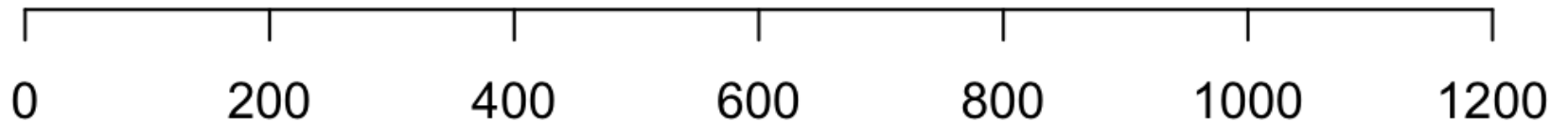
o

oo

o

o

o



査読期間 (日)

有料化は極端な長期化を防ぐ？

審査回数の上限の有無と査読期間

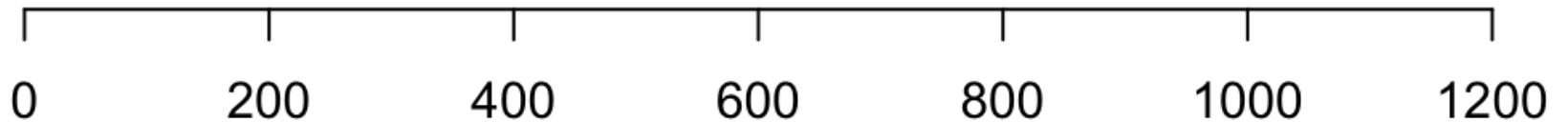
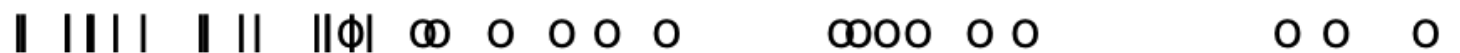
審査回数の上限は査読期間を短縮？
一方で掲載率を下げる？

| Median o Max.

上限あり



上限なし



再投稿を加味すると見かけの期間が短いだけ？
サンプルが少ないので追加調査が必要

査読期間制限/回と査読期間

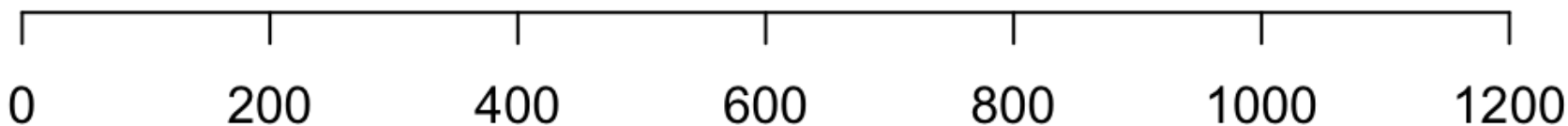
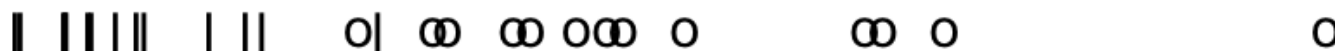
査読期間の制限は査読期間を縮めない？

| Median o Max.

1回あたりの
査読期限あり



1回あたりの
査読期限なし



査読期間 (日)

査読者が期限を守っていない？ やりとりの回数が多い？
著者の返答が遅い？ 期限が守られない場合の対応は？
やはりサンプルが少ない

考察

- 査読期間はやりとりの回数に影響を受ける
- 掲載不可の論文は対象になっていない
- 査読のスタイルは雑誌によって異なる
 - 指導的添削～校閲のみ
- 電子投稿システムや査読期間の統計情報、編集委員会日程を公開して早さをアピールしている雑誌がある一方で、公開情報からは査読に関する情報がほとんど得られない雑誌もあり、温度差がある

まとめ

- 論文＝業績
- 投稿者（特に若手）から見ると査読の早さは魅力的
- 魅力的な雑誌には優れた論文が集まる（はず）
- ↑学会やコミュニティにとって有益なこと
- 研究者は査読期間に興味を持とう
- （査読が来たら早く返そう）

ご清聴ありがとうございました

<http://shimazakikan.com/>

2013/10/12情報文化学会にて発表